

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		でらび〜				公表日	令和 8 年 2 月 4 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	床面を広く使えるよう片付けている。場合によってはホールに出たりテラスに出たりしている。	雨天時の車いすやピット等の置き場の確保が課題となっている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		都度増員できる環境である。生活介護の職員も連携して子どもたちの把握ができています。スタッフも多い。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	扉がなく誰でも見渡せる環境になっている。視覚に入るよう掲示物を配置している。	扉がない分、感染症疑いがある場合の隔離が課題。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	毎日、掃除や消毒をしている。活動内容を事前に話し合い、子どもにとって安全で快適な環境になるよう設定をしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	4	完全個室は環境的にも利用者さんの健康安全の為に難しいため、パーティション等で半個室を作っている。	バリアフリーで扉もないため完全個室ができない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		毎日のミーティング、申し送りノートで情報共有している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	3	保護者の意見や意向はその都度話し合いで共有している。	不明な職員がいたため周知していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		自由に相談できる環境づくり。毎朝のミーティング、その都度思ったことは伝えられるようになっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	でらび〜以外(生活介護)の意見を取り入れ話し合いを行っている。	生活介護以外の外部評価が難しい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		研修案内が来た時には職員に呼びかけ、参加を促している。年に数回法人内でも職員研修を行い勉強の機会や意識向上の機会を作っている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		公表し共有している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	1	職員間でアセスメントを行い話し合ったうえで作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		計画作成前に子どもに関わるスタッフで話し合いを行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画案の状態から職員間で意見を出し合い計画を立て共有し支援をしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	アセスメントや職員間の話し合いで日々、子どもの状況を確認している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	職員間で意見を出し合って活動を決めている。	学校が15時下校の時は、時間に限りがあるため固定されがちであるのが課題。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		メリハリある活動を心掛けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		朝のミーティングでその日の動きを確認し、多職種で連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	終了後に振り返りができないときには、朝のミーティングで必ず振り返っている。また、適宜その場で話をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1		「4つの基本活動」を知らない職員もいるため周知していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		自己選択を重んじた声掛けや支援を心掛けて子どもの反応をよく観察している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		関係機関とは必要に応じて情報共有をし連携支援ができる体制になっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校とは密に連携が取れる環境になっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	でらびへの児童発達からそのまま放デイへの移行の方が多いが、他事業所利用の方に関しては密に情報共有する。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	まだ機会はないが、情報提供できる環境ではある。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	6	必要に応じて支援センターと情報交換する機会を設けることができる環境ではある。	児童発達センターに通う児がいなく連携は薄れている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5	なかなか会う機会はないが散歩や公園に行った際には積極的に挨拶し地域の方々に認識してもらえるよう意識している。	なかなか会う機会はないが散歩や公園に行った際には積極的に挨拶し地域の方々に認識してもらえるよう意識している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		受け入れ、送り出し時に情報交換やその日あったこと、成長を伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	必要に応じて家庭訪問を行う。家族が参加できる研修があるときには情報提供し参加を促している。	
関係機関や保護者との連携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		面談時に説明、保護者より質問があった際には適宜説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		面談時に説明し同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者より話が合った時には話を聞く時間を設けている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1	ランチ会やイベントを開催し、保護者やきょうだいが集まる機会を設けている。	なかなかきょうだい児同士が関わる機会が作られていない。 保護者が集まれる企画を考えていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		活動の様子を随時SNSに投稿し発信している。お便りでも活動の様子や行事予定など発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		意思決定支援を心掛け、保護者とも伝達方法を考慮しながら、密にコミュニケーションをとっている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		でら〜とまつりで地域の方々も来てくれ交流を行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		マニュアルはいつでもだれでも見られるようにファイルに閉じている。訓練も定期的に行っている。(看護師による感染症対策訓練)	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPを作成し、いつでもだれでも見られるようにしている。職員には研修等で周知している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		利用時に細かく聞き取りをしている。服薬やてんかん発作等はその都度変化があれば保護者と情報交換している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		アレルギーを持つ子に対しては医療機関と連携をとり対応する。指示書をいただき、調理師と除去食について話をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		年度初めに安全計画を作成し、研修等で周知できるようにしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2	年に一回、安全計画を面談時に確認を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		気づき改善をあげて再確認を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止委員会の報告、また虐待に対しての外部研修の報告、施設内では実践研究として取り組んでいる。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	2	面談時に確認を行っている。		